

岐阜市の概要

まちを楽しむ

岐阜市は岐阜県の県庁所在地であり、市内中心部に清流・長良川が流れ、緑豊かな金華山がそびえる、自然豊かなまちです。1,300年以上の歴史を誇る「ぎふ長良川の鶺鴒」や国史跡「岐阜城跡」など、歴史のまちとしても知られています。斎藤道三・織田信長が登場した戦国時代に、岐阜は天下の要所として全国に名が知られるようになりました。江戸時代には、岐阜町は尾張徳川領に、加納町は加納藩の城下町そして中山道の宿場町として、発展の道を歩んできました。明治22年7月1日に岐阜市制を施行して以後、近隣町村との合併を続ける一方、戦争や地震、台風による災害などの困難を克服しながら、産業・観光都市として成長。平成8年4月に中核市となり、平成18年1月に羽島郡柳津町と合併、令和元年7月1日には市制130周年を迎えました。

■岐阜駅北口駅前広場／岐阜シティ・タワー43／岐阜スカイウイング37／岐阜イーストライジング24

●岐阜駅北口駅前広場

平成21年9月に完成。岐阜の自然や歴史、伝統文化をモチーフにしたデザインで、県都の玄関にふさわしい景観。緑豊かな広場は「杜(もり)の駅」をテーマにしたほか、歩行者デッキ「杜の架け橋」で駅とまちをつなぎ、バスやタクシーの乗降場を整備。黄金の織田信長公像がそびえる「信長ゆめ広場」でのイベントがにぎわいを創出しています。



●岐阜シティ・タワー43

駅前広場の西側にそびえ、地上163m、住居を伴う複合タワーでは中部圏で一番の高さ。最上階43階のスカイラウンジからは岐阜市の絶景や美しい夜景が楽しめます。

●岐阜スカイウイング37

岐阜シティ・タワー43の北側に位置します。地上37階建て、高さ136mの東棟をはじめ、西棟、駐車場棟の3棟で構成され、住宅・商業施設・ホテルなどが入居。人が住み、働き、憩う駅周辺の魅力ある拠点となっています。

●岐阜イーストライジング24

JR岐阜駅の東側に、平成31年1月に完成。地上24階建て、高さ95m、福祉施設を主体とし、住宅・商業施設などが入居。多世代が集い新たなにぎわいを創出しています。

■川原町界隈



戦争や震災をくぐり抜け、江戸時代から明治時代の歴史的なまちなみ、格子造りの町家や商家、蔵などが残る「川原町界隈」。川原町とは、長良川左岸に位置する湊町、玉井町、元浜町などの総称で、戦国時代には長良川沿いに川湊が設けられ、美濃和紙や木材などを扱う商業の拠点として繁栄した地です。

■長良川温泉

長良川と金華山の周辺に広がる温泉街。赤褐色のにごり湯が特徴です。清らかな川の流れを眺めながら温泉に身をゆだね、鮎料理や薬膳料理に舌鼓を打ち、ぜいたくなひとときをご堪能ください。



■岐阜市の統計情報

- 位置 東経136°45′ 北緯35°25′ 海拔14.3m
- 面積 203.60km²
- 世帯数 189,189世帯
- 人口 男性：189,865人 女性：207,881人
- 総人口 397,746人 (令和7年5月1日現在)

■市章(明治42年8月27日制定)

岐阜市は往古「井口(いのくち)」と呼ばれ、織田信長により「岐阜」と名づけられました。この由緒に基づき、井口の「井」を市章に決めました。



■市の木・市の花(昭和47年10月22日制定)



市の木：つばらじい



市の花：サルビア

■金華山／岐阜公園



市の中心部に位置する金華山は、標高329m(国土地理院の三角点設置箇所)。山頂には岐阜城がそびえ立ち、まさに岐阜のシンボルと言えます。春は「つばらじい」が山を黄金色に染めるほか、豊かな森林が残り、700種類を超える植物やさまざまな動物が息する自然の宝庫です。山頂へはぎふ金華山ロープウエーのほか、登山道が整備され、リス村もあるなど、自然を気軽に楽しめます。

金華山のふもとに広がる岐阜公園は、市民の憩いの場であり、現在「歴史公園」として再整備を進めています。織田信長公居館跡や岐阜市歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館などの施設、三重塔などの文化財、戦国時代にタイムスリップしたかのような遊具広場、自然豊かな空間を散策できる御手洗池などがあります。

■岐阜城

鎌倉幕府の執事であった二階堂行政が築いたと伝えられ、道三公や信長公の居城として知られています。昭和18(1943)年の初代復興天守焼失後、昭和31(1956)年に現在の天守が再建されました。



▲アクセス＝岐阜バス岐阜公園・長良橋方面行き「岐阜公園・岐阜城」下車 ©41ページも併せてご覧ください。



伝統の技、日本の宝に魅せられる

■ぎふ長良川の鶺鴒

岐阜の夏の風物詩「ぎふ長良川の鶺鴒」は毎年5月11日から10月15日まで、鶺鴒休み(中秋の名月ごろ)と増水時を除く毎夜行われます。鶺鴒は1,300年以上の伝統を誇り、織田信長をはじめ、時の権力者の保護を受けてきました。また、松尾芭蕉やチャールズ・チャップリンら多くの文化人にも愛されてきました。漆黒の闇の中、6人の宮内庁式部職鶺鴒匠が、風折烏帽子(かざおりえぼし)などの装束に身を包み、篝火(かがりび)を焚(た)いた鶺鴒舟に乗り、「ほうほう」と声をかけながら、熟練した手縄さばきで鶺鴒を巧みに操り、鮎を捕らえます。6隻の鶺鴒舟が一列に並び鮎を追い囲む姿は、観覧する人を魅了し、幽玄の世界へと誘(いざな)います。

●鶺鴒時間

19時45分ごろ(時季やイベントにより変動あり)
※夏休みの土曜日など繁忙期には、通常の鶺鴒の後に2回目の鶺鴒(納涼鶺鴒)を実施する場合があります。実施日・料金などはぎふ長良川の鶺鴒ホームページに掲載。

●乗合船

出船時間	料金(税込)	
	大人	小人
18時15分 18時45分 19時15分	3,500円	1,800円 ※小学生以下 (3歳未満は無料)

※出船時間が19時15分の乗合船は、平日のみ大人3,200円。食事・飲み物はお持ち込みください。鶺鴒匠による鶺鴒説明を「鶺鴒観覧船のりば」で17時45分ごろから行います。

●貸切船

乗船定員数	出船時間	料金(税込)
50人乗り	17時30分～19時15分のご希望の時間に出船します	148,800円
40人乗り		119,000円
30人乗り		89,300円
20人乗り		59,500円
15人乗り		44,700円
24人乗り(椅子席)		89,300円
16人乗り(椅子席)		59,500円

●高級鶺鴒観覧船(貸切)

闇に溶け込む外観で統一され内装のテーマカラー・屋形が異なる3隻の高級鶺鴒観覧船では、特別な空間で鶺鴒を観覧できます。

	乗船定員数	料金(税込)
花篝(はなかがり)	15人乗り	134,100円
藍山(あいやま)		
白月(しらつき)	10人乗り	89,400円

■伝統工芸品

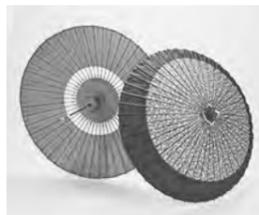
古くから美濃和紙の産地が近く、薄くて丈夫な和紙や良質な竹に恵まれたことにより、岐阜提灯、岐阜和傘、岐阜うちわ、のぼり鯉・花合羽(油紙)などの伝統工芸品が育まれてきました。いずれも脈々と受け継がれる熟練した職人の技が光ります。また、武者のぼりや大漁旗などの染色方法である美濃筒引き本染め・手刷り捺染という古来の技法も受け継がれています。岐阜提灯は平成7年、岐阜和傘は令和4年にそれぞれ国の伝統的工芸品に指定されています。

●岐阜提灯



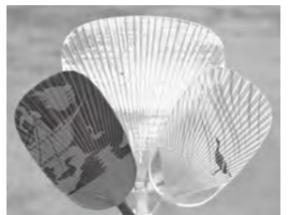
250年以上の歴史を持つ「岐阜提灯」は、細いひごを巻き、薄い和紙を張って作られており、秋の七草や花鳥、風景など細やかな絵柄が描かれています。

●岐阜和傘



主に加納地域で生産されている「岐阜和傘」は、熟練した職人の細やかな手作業によるいくつもの工程を経て作られる、人を和ませる華やかで繊細な工芸品です。

●岐阜うちわ



「岐阜うちわ」には、仕上げに漆を塗った「塗うちわ」、柿渋を用いた「渋うちわ」のほか、がんび紙を張り、専用のニスを使って仕上げる「水うちわ」があります。



●「おまかせパック」「おまかせパックデラックス」

乗船料と弁当・お茶をセットにし、お気軽に鶺鴒観覧をお楽しみいただけます。リーズナブルにご利用いただける「おまかせパック」、ワンランク上のお弁当を味わいながらデラックス専用船(椅子席)で楽しむ「おまかせパックデラックス」の2つのプランがあります。

■旅行代金(税込)

プラン名	大人(中学生以上)	小人(3歳以上小学生以下)
おまかせパック	6,200円	4,200円
おまかせパックデラックス	9,800円	8,200円

※いずれも乗船料+弁当+お茶

■開催日(18時45分出船のみ)

鶺鴒開催期間中の火～金曜日(祝日、特定日は除く)

■申込

・参加(乗船)希望日の11日前までに岐阜観光コンベンション協会ホームページのインターネット予約または電話で(公財)岐阜観光コンベンション協会へお申込みください。
岐阜観光コンベンション協会
ホームページはこちら▶



・旅行代金は、クレジットカードまたは協会指定の口座へ所定の期日までに振り込みにてお支払いください。

▶鶺鴒観覧船の予約

ぎふ長良川の鶺鴒ホームページから

ぎふ長良川の鶺鴒ホームページはこちら▶



問 鶺鴒観覧船事務所(湊町1-2) ☎262-0104